



歯のはなし

生え方、根の形は十人十色！ 親知らずの抜歯は意外と大変？

皆さん、親知らずを抜いた経験はありますか？「スムーズに抜歯できた」という方がいる一方で、「歯を分割して、骨を削ったから時間もかかった」と大変な思いをされた方もいらっしゃると思います。その主な理由は、親知らずの生え方や根の形は人それぞれで、それによって抜歯の難易度が異なるためです。そこで今回は、**親知らずの抜歯**についてお話しさせていただきます。

親知らずとは？

親知らずとは、前歯から奥に向かって数えて**8番目**の一番最後に生えてくる永久歯のことです。ちなみに、親知らずとは俗称で、正式には**第三大臼歯**や**智歯**などと呼ばれます。一般的には10代後半から30代にかけて上下左右に1本ずつ生えてきますが、中には歯ぐきの中に埋もれて顔を出さなかったり、そもそも親知らずが無いという人もいます。



生え方の一例

生え方の一例をご紹介すると、①上向きに生えてキレイに顔を出すパターン、②一部だけ顔を出すパターン、③完全に歯ぐきの中に埋もれて顔を出さないパターンなどがあります。

①の場合であればあまり問題は発生しませんが、②の場合はケアが難しくむし歯になりやすかったり、炎症を起こしやすかったりするため注意が必要です。③は歯が顔を出していないためむし歯になることはありませんが、のちのちトラブルが発生したり、抜歯が必要になる場合もあります。

生え方の例



上向きに生えて顔を出すパターン



一部だけ顔を出すパターン



完全に埋もれているパターン

抜歯の難易度

難易度1 歯ぐきを切開して抜歯する。

低

生え方が①のパターンであれば**難易度は1**か**2**、②のパターンであれば**2**か**3**、③のパターンであれば**4**と想定されます。また、下顎の親知らずの近くには**頸の神経**があり、傷つけないよう細心の注意が必要になるため、一般的に上顎よりも**下顎の親知らずの方が難易度は高くなります**。

難易度2 歯を分割するが、骨は削らずに抜歯する。

難易度

難易度3 歯を分割して、さらに骨を削って抜歯する。

高

難易度4 完全に骨の中に埋まっている歯を抜歯する。

抜歯する、しないの基準

親知らずを抜歯するか、しないかの判断基準としては、まず**親知らずが悪さをしているか、いないか**によります。親知らずに食べ物がよく詰まる、歯ぐきがはれやすいなど、親知らずがあることでむし歯や歯周病のリスクが高くなってしまう場合は抜歯を選択するケースが多いでしょう。

また、**若い年齢**であれば骨がやわらかいため抜歯がしやすく、抜歯後の傷の治りも早いというメリットがあります。また、将来的に**妊娠や出産を希望される女性**は、その期間中に**トラブルが発生した場合を考慮して**、事前に抜歯を選択することもあります。一方、高齢になると骨が固くなるため抜歯がしにくく、さらに他の病気や服用中の薬との兼ね合いで注意が必要になるケースも増えてきます。



なかなか一筋縄にはいかない場合もありますので、親知らずが気になる方はお気軽にご相談ください。